



公益財団法人

大阪産業局

O.B.D.A.

OSAKA BUSINESS DEVELOPMENT AGENCY

ベトナム情報レポート（2022年7月30日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク
株式会社NCネットワーク

【2022年上半期のGDP成長率】

ベトナム統計総局は6月末、2022年上半期のGDP成長率を6.42%と発表しました。2022年第2四半期のGDP成長率は7.72%と、2011年以来、第2四半期の成長率としては最高値を記録。好結果となった要因として、複数の業界・分野における回復が指摘されています。

第一に、国内・海外ともに好調な旅行業界です。いくつかのサービスは第2四半期に2桁成長を遂げ、上半期の旅行業界の成長率は6.6%とコロナ後の回復を強く印象付けました。外国人観光客の受け入れも再開し、前年同期比6.8倍となる約60万人が入国しました。

第二に、工業生産分野の回復です。生産活動はコロナ前に戻りつつあり、2022年上半期の鉱工業指数（IIP）は前年同期比8.7%上昇しました。

第三に、小売および消費サービスにおける売上回復です。コロナが抑制されたことで人々の移動の制限が解かれ、職場復帰による安定した収入の確保により消費が刺激されました。

第四に、輸出入活動の活発化です。上半期の輸出入総額は前年同期比16.4%増の3,712億ドルで、7億1,000万ドルの貿易黒字でした。

第五に、投資活動の再開です。社会全体の投資活動は前年同期比9.6%増、そのうち外国直接投資（FDI）は8.9%増の101億ドルとなる見込みです。

その他の要素として、新規設立および活動再開企業数の増加、労働人口および平均給与の上昇などが挙げられます。

一方で、世界経済と同様、ベトナム経済にとっても懸念材料となるいくつかの要素があります。ロシア・ウクライナ紛争を主因とする世界的な燃料価格の高騰は、原材料、輸送コストをはじめ、あらゆる価格へ波及するでしょう。ベトナムでは動物飼料の価格が上がり、年末に向けて畜産業、特に豚肉の価格上昇が懸念されます。また、旅行業界、貿易収支は大幅な回復基調にあるものの、以前のような勢いを取り戻してはいません。中国のゼロ・コロナ政策によるサプライチェーンの混乱は、多くの原材料を中国に依存するベトナムにも大きな影響を及ぼしています。

そういった中でも、各国際機関によるベトナムの評価は他国に比べるとかなり楽観的です。今年のGDP成長率について、世界銀行は世界経済の成長予測を4.1%から2.9%に、東南アジアおよび太平洋諸国の成長予測を4.4%に下方修正する一方で、ベトナムの成長率は5.5%から5.8%に引き上げました。IMFの予測は6.0%、ADBの予測は6.5%といずれも

前向きな評価です。

現在、ベトナムでは石油に輸入税、物品税、環境保護税、付加価値税の税金がかけられています。ベトナム政府は高騰するガソリン価格を調整するために、一時的な減税措置をとるなど努力を続けています。ガソリン価格の高騰を抑え、許容範囲でインフレを抑制する政策を打つことで、今年の成長目標の達成が見えてくるでしょう。